

氏名	古 市 圭 治
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 949 号
学位授与の日付	昭和53年3月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	修正アルカド・テストを用いての飲酒慣行の検討
論文審査委員	教授 緒方正名 教授 長島秀夫 教授 大月三郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

岡山県下の農村部住民を対象とし、広域的に飲酒慣行の実態を明らかにすることを目的として、修正アルカド・テストを用い郵送法による調査を実施した。さらにテスト自体の分析を行い、飲酒慣行の弁別可能性について項目別に検討した。男子519名についての調査結果の要約は次のとおりである。

- 1) 飲酒習慣をもたない者は46%、毎日飲酒者37%を含めて飲酒習慣を有する者は54%であり、年齢・職業等により飲酒頻度に差が認められた。
- 2) 飲酒傾向を示すテストの得点数は、飲酒頻度が増すに従って増加し、飲酒頻度の相違する群間では平均得点数或いは得点数の分布に明らかな差が認められた。
- 3) 飲酒頻度の相違する群間において飲酒傾向を示す回答の出現率に差が認められたのは、38の質問項目のなか32項目であり、これらの項目は飲酒習慣をもたない群と有する群とをよく弁別すると同時に、各群の飲酒習慣の特長を明らかにしうることが認められた。
- 4) 修正アルカド・テストをさらに検討して用いることにより、飲酒慣行を個人的にも集団的にも明らかにしうることが指摘した。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究は、岡山県下農村部住民に修正アルカドテストを用い、飲酒慣行を調査したものである。特に毎日飲酒群には飲酒の規則性と嗜好の項目に肯定的回答率が高く、週に4～6日飲酒群には社会的に問題とされる飲酒行動の項目についての肯定的回答率が高い事等を認めている。そして、

飲酒慣行を個人的・集団的に明らかにするためには、修正アルカドテストが有効であることを示したものである。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。